



～ケンカも大切なコミュニケーションです～

同じ年代の子どもたちと一緒に遊ばせたいけどすぐケンカをしてしまう…。「何で仲良く遊べないの？」と思うことはありませんか？

子どもは2～3歳くらいまでは友達に興味はあるけれど、一人で遊ぶことが多いのですが、3歳以降になると少しずつ仲間と遊ぶことができてきます。大人が入って遊んでいる『大人との遊び』は子どものやりたいことをくみ取ったり、遊びが続くように提案などができますが、子どもたちだけの『子どもとの仲間遊び』では相手の気持ちをくみ取ったり合わせたりせず、自分のしたいことを主張するので、ここで『ケンカ』が起こります。子どもたちはこの『ケンカ』を通して自分と違う相手の存在や、気持ちに気づきます。

『ケンカ』は自己主張だけでは遊べないこと、どうしたら友達に受け入れられるかなど経験の中で学んでいきます。ケンカは大切な発達のステップなので見守ってあげましょう。ただ、ケンカがエスカレートする場面では、叱るのではなく、相手がどう感じるかなどアドバイスをし、『気づき』のお手伝いをしてあげてください。

引用文献：エンパワーメント研究所発行 「ちゃんと人とつきあいたい」 筒井書房

